

中学生国際留学プログラム事業

~the third~



南幌中学校生徒9名の 帰国報告

英語検定3級を取得した南幌中学校生徒9名が、8月7日から20日までの2週間、カナダ・バンクーバー地域において、現地のトリニティ・ウエスタン大学での語学研修やホームステイによる生活体験、保育所で子どもたちと交流するなど、貴重な体験をしました。

カナダへ出発、ホームステイ

8月7日、生涯学習センター「ぼろろ」において、出発式を行い、派遣生徒を代表してリーダーの菊池春治君が「英語だけでなく、日本との文化の違いを学びたい」と決意表明を述べ、南幌町を出発しました。



9時間の長いフライトでバンクーバー空港に到着した生徒たちは、聞こえるもの見るもの全て英語という感覚に戸惑いながらも、ホストファミリーの待つトリニティ・ウエスタン大学へ向かいました。

どのようなファミリーなのだろうかと生徒たちは全員緊張した面持ちでしたが、温かく迎えてくれるホストファミリーと挨拶を交わすと、途端に笑顔になりました。間もなくそれぞれ各家庭へ向かい、ホームステイがスタートしました。

どの家庭も、生徒のことを本当の家族のように思ってくれ、特に食事については好き嫌いを教えて欲しいなどとても気を使ってくれます。

語学レッスン

平日の午前中は、大学内にあるESLI(英語を母国語としない人向けの英語教育プログラム)による語学研修を行います。今回はESLI専門のリズ先生と2人のTA(アシスタントの先生)エイミーとメーギャンが留学期間中、優しく丁寧に英語を教えてくださいました。



授業初日は、ロールプレイをとおりして英会話の表現を学習しましたが、リズ先生は話すのが早く、はじめは何を言っているかわからなかったようですが、日にちが経つにつれ耳が慣れ、それぞれ聞き取れるようになりました。

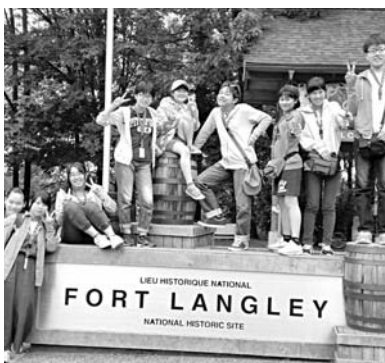
アクティビティ

授業では、カナダの国歌や州、お金の勉強、キャンプ用語やキャンプで何を使うか、食べるかなどさまざまです。新しい言葉や表現、知らなかった文化の違いが出てきたりと日々新鮮さを感じたようです。

アクティビティ

平日の午後からは、観光地や保育所訪問、バンクーバー観光などアクティビティの時間となります。

「フォートラングレー」カナダ西部開発の起点となった博物館を見学し、砂金採りなどを体験。



「クッキー・ケーキ作り」先生と2名のTAとクッキー、ブラウニー、カップケーキを作り、合間にゲームやピアノで楽しみました。



「チャイルドケアセンター訪問」
2〜4歳の子どもたちと紙飛行機や折り紙で交流しました。お互い英語が上手ではないので、子どもとのコミュニケーションが一番難しいようです。



「ホワイトロック」
アメリカとの国境をまたいだり、近くの海岸を散策。大きな「白い岩」に登って記念写真を撮りました。



8月18日、12日目の午後からはパーティーの準備に取りかかり、出し物の練習と確認を行いました。ホストファミリー全員が大学に集り、19時20分からさよならパーティーがスタート。

さよならパーティー、帰国

「バンクーバー市内観光」
有名なスタンレーパーク、ギヤスタウンの蒸気時計、バンクーバーオリンピック聖火台、カナダ・プレイスなどを散策。カナダ上空を4Dで遊覧飛行するフライオーバーカナダ、観光とショッピングを楽しみました。



なかばやし ふみ
中林 文さん

おおよその英語を英語としてとらえられるようになった



かなねこ ももか
金籠 桃佳さん

これからももっと勉強していつかまた必ずカナダに行きたい



たけやま あひ
竹居田 彩希さん

東京オリンピックでたくさんの外国人がいるなかで、少しでも役に立ちたい



やねう ゆい
矢内 由希菜さん

また、カナダに行ってホストマザーと猫に会いたいです



いしかわ りなの
石川 綾乃さん

あっという間の14日間で、今思い出すと夢のようでした



きくち はるや
菊池 春治君

英語に耳が慣れたことは、不思議な経験でした



ほし野 ゆずか
徳山 陽菜さん

この体験や学んだ文化・英語を生かしていろいろな事に挑戦していきたいです



なかがわ ちやうりゆう
中川 朝陽君

今回学んだ英語を無駄にせず、これからも積極的に使っていきたいと思います



わかばやし あい
若杉 一愛さん

カナダでお世話になった人との別れはつらく、カナダにいたと感じました

ダンス、ギター、書道、空手、全員での合唱と、一生懸命に感謝の気持ちを伝えました。
合唱の時には涙する生徒もいましたが、みんな自分の言葉でできることを精一杯やりとげました。最後に修了証をもらいパーティーは無事終了しました。

帰国の日、日系移民ゆかりの地でもある港町ステイブストンに立ち寄り、100年ほど歴史のある缶詰工場を見学。通訳は必要なくみんな聞き取りできるようになりました。
先生とTAとの別れを惜しみながらもカナダを後にし、帰国しました。

プログラムを終えて

「事前にデイビット先生ともう少し話しておけば…、単語をもっと覚えておけば更に充実した」など帰国後に反省はありましたが、この貴重な経験を友達や後輩へ伝え、少しでも国際社会への興味・関心が高まればと思います。